

春 告 草

第 95 号 平成 30 年 2 月 21 日 進路指導部発行

国公立大入試が始まる

センター試験から始まった平成30年度大学入試であるが、2月も下旬になった。私立大入試は3月上旬にかけて後期募集、Ⅱ期、Ⅲ期募集などが行われるが、募集定員は少なく、ほぼ全日程が終わったといって良いだろう。

一方、国公立大入試は前期試験が25日から始まる。合格発表は3月10日までに行われることになっている。後期試験は3月12日以降に実施され、最終の合格発表日は3月24日である。いよいよ今年の入試も終盤。3月10日は卒業式だが、6年生が一人でも多く、晴れやかな日を迎えられるように祈ろう。

国公立大学出願状況

第94号でもふれたが、今年のセンター試験では現役志願率が過去最高の44.6%に達した。高卒見込者が前年より1万人以上減少する中、実受験者は昨年より約6千人増加し、55万人台にのせた。また志願者の55.3%が7科目以上を受験した。国公立大で推薦入試、AO入試を実施する大学が増えていることもあり、国公立大を志願する受験者数は安定している。学部の志望傾向は「文高理低」に変わりはない。大学新卒者の就職状況が好調であることが背景にあるが、大学側では文系学部の定員を理系学部や学際学部へとシフトさせていて、受験生の志向とは若干のずれがあるように思われる。

受験生の動向に影響を及ぼすセンター試験も「大きな失敗のなかったセンター試験」と前号でコメントしたが、平均点は前年と大きく変わらず、国公立大の一般入試は安定した入試となりそうだ。

都内国公立大の出願状況を見てみよう。

東京大は全科類で2段階選抜が実施されたことを、前号で伝えた。理三以外の科類は前年並みの志願数であるが、理三は前年比15%の減である。医学部全体の人気下がっていることもあるが、一般入試に面接が必須となったこと、志望理由書の提出も必要となったことが、志望者減の理由の一つとも考えられる。

一橋大は後期試験が今年から経済学部だけの実施となり、昨年比25%の増である。もともと一橋大社会学部、法学部の後期募集枠はそれぞれ10名の少人数だったが、両学部の後期試験廃止で前期両学部の志願者の一部はが後期で経済に出願したと見ることができる。

東工大は第5類が最難関であることに変わりはない。志望類は第2志望まで書けることになっている。類別の募集は今

表 1. 国公立大学入試日程(平成30年度入学者選抜)

推薦入試(センター試験を課さない場合)の結果発表	1月19日まで
国公立大学入試出願	1月22日～31日
第1段階選抜(前期日程)、推薦入試(センター試験を課す場合)、AO入試の結果発表	2月7日まで
第1段階選抜(公立大中期日程)の結果発表	2月20日まで
前期日程試験実施	2月25日から
第1段階選抜(後期日程)の結果発表	2月28日まで
中期日程試験実施(公立大)	3月8日以降
前期日程合格発表	3月10日まで
後期日程試験実施	3月12日以降
中期日程合格発表	3月23日まで
後期日程合格発表	3月24日まで

表 2. 大学別志願状況(1)

東京大学		一般前期			一般後期		
科類名	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	
文科一類	401	1323	3.30				
文科二類	353	1201	3.40				
文科三類	469	1535	3.27				
理科一類	1108	2992	2.70				
理科二類	532	2174	4.09				
理科三類	97	450	4.64				
一橋大学		一般前期			一般後期		
学部名	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
商	255	817	3.2				
経済	195	742	3.8	60	1201	20.0	
法	155	488	3.1				
社会	220	888	4.0				
東京工業大学		一般前期			一般後期		
類	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
第1類	175	707	4.0				
第2類	73	269	3.7				
第3類	96	424	4.4				
第4類	183	963	5.3				
第5類	177	1118	6.3				
第6類	87	493	5.7				
第7類	95	255	2.7	35	469	13.4	

回の入試が最後で、2019年度入試より全学一括募集に変更となる。「類」も廃止され「学院」体制となるが、志願者は6つの学院から希望する順に3つの学院を選択し、出願する。

お茶の水女子大は生活科学部に心理学科が開設される。これまで、文教育学部の心理学コースと生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座で行われていた内容を統合したものである。注目度も高く、初年度より高倍率を記録した。

電通大は前期試験が一括募集、後期日程は類別募集である。志願倍率に大きな変動はない。

農工大は「文高理低」という全体的な志望動向もあるが、農学部人気に陰りが見え、全学科で前年比減となった。農学部全体では15%のダウンである。一方、工学部は学科による凸凹はあるものの、全体では前年比24%のアップとなった。

東京海洋大は英検準2級以上取得など、英語外部検定試験による資格取得が出願するための必須要件だが、経過措置が延長され、本格実施は次回の入試以降となった。しかし、それにも関わらず前期試験は大学全体で昨年比13%の減、後期試験でも30%の減となった。

東京外語大は募集学科が多く、表にはしていないが、言語文化は前期のみの募集で15%減、国際社会は前期が昨年並み、後期は14%減である。

東京学芸大は前期で9%減、後期で18%減である。首都大は前号に志望状況を掲載した。学部改組があり、募集人員にも変更があったので前年との単純比較はできないが、ほぼ前年並みの志願状況である。

旧7帝大(北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)の前期日程志願者を前年と比較すると、東北大、大阪大で6%増、北海道大5%増、東京大、九州大が微増、名古屋大、京都大が昨年並みだった。

京都大は前期農学部の9%増が目立つが、これは昨年20%減の反動だ。後期法学部は24%減であるが、これは逆に昨年的大幅増の反動である。

前年度の試験で志願者が急増すると、次年度では激減することが多い。もちろん、その逆のケースもあるが、志願者の増加・減少を交互に繰り返す事例は少なくない。こういった状況を「隔年現象」というが、受験生心理の現れだろう。自分の入試に備え、今年の志願状況を各自確かめておくと良いだろう。

旧7帝大中、最も増加した東北大は、ある調査では「入学後生徒を伸ばしてくれる大学」で1位、「面倒見が良い大学」で2位、「教育力が高い大学」、「研究力が高い大学」で3位と評価が高い。昨年大きく減った前期教育学部で48%増加したほか、前後期の合計では医学部を除く9学部で志願者は増加している。

その他国立大の中で増加が目立つのが秋田大。入試改革により、理工学部全体の志願者数は昨年の3倍に増加し、全学部の合計では、前期が86%増、後期も52%と大幅に増えた。

表3. 大学別志願状況(2)

お茶の水女子大		一般前期			一般後期		
学部・学科名		募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
文教育	人文学科	32	81	2.5	11	155	14.1
	言語文化	64	154	2.4			
	人間社会科学	24	70	2.9	6	99	16.5
	芸術－舞踊教育学	12	51	4.3			
理	芸術－音楽表現	5	17	3.4	3	19	6.3
	数学	13	58	4.5	3	73	24.3
	物理	14	47	3.4	3	18	6.0
	化学	16	35	2.2	4	34	8.5
	生物	18	34	1.9	3	25	8.3
生活科学	情報科学	23	90	3.9	10	90	9.0
	食物栄養	31	143	4.6	5	63	12.6
	人間・環境科学	19	63	3.3	5	36	7.2
	人間生活	32	155	4.8			
	心理	23	96	4.2			

電気通信大学		一般前期			一般後期		
学部・類名		募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
情報理工		370	1587	4.3			
情報理工	I 類(情報系)				76	910	12.0
	II 類(融合系)				89	782	8.8
	III 類(理工系)				85	756	8.9

東京農工大学		一般前期			一般後期		
学部・類名		募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
農	生物生産	38	108	2.8	13	149	11.5
	応用生物化学	47	138	2.9	16	142	8.9
	環境資源科学	40	91	2.3	12	160	13.3
	地域生態システム	53	148	2.8	15	123	8.2
	共同獣医	25	129	5.2	6	90	15.0
工	生命工	48	143	3.0	24	309	12.9
	応用分子化学	28	84	3.0	14	135	9.6
	有機材料科学	28	42	1.5	11	90	8.2
	化学システム工	20	62	3.1	12	140	11.7
	機械システム工	77	198	2.6	34	323	9.5
	物理システム工	33	102	3.1	18	165	9.2
	電気電子工	56	130	2.3	26	133	5.1
	情報工	36	103	2.9	21	161	7.7

東京海洋大		一般前期			一般後期		
学部・学科名		募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
海洋生命科学	海洋生物資源	43	195	4.5	18	152	8.4
	食品生産科学	33	138	4.2	15	96	6.4
	海洋政策文化	26	78	3.0	12	96	8.0
海洋工	海事システム工	36	115	3.2	14	88	6.3
	海洋電子機械工	34	100	2.9	14	89	6.4
	流通情報工	21	80	4.2	15	105	6.9
海洋資源環境	海洋環境科学	39	222	5.7	16	137	8.5
	海洋資源エネルギー	27	73	2.7	11	78	7.3

国立大4割 正解非公表 昨年入試 文科省開示促進へ

大阪大、京都大での入試ミスが続けて報道された。いずれも、前年の入試における出題ミスが、今年になって大学側から正式に発表されたというものだ。大阪大学では今年のセンター試験直前に、前年入試の追加合格者を30名発表し、京都大学では、センター試験後の2月に17名の追加合格者を発表した。

国立大学の正解・解答例の公表状況

新聞社が国立大82校に行った調査では、入試問題の正解・解答例の公表状況は別表に示すとおりである。

正解・解答例のすべて、または小論文など一部を除いて公表しているのは、大阪大や北海道大、筑波大、名古屋大、九州大など45校。すべて非公表だったのは京都大や東京大、東北大、一橋大、東京工業大など36校だった。

公表の理由を「本学が求める学力や能力を示すため」(名古屋大)など14校が受験生への情報提供だと説明。「信頼される公平・公正な入試とするため」(長岡技術科学大)など情報公開の重要性を指摘する回答もあった。

一方、非公表の理由では「(記述式問題で)解答例が唯一の解法だと誤解される可能性がある」(千葉大)、「模範解答を目指す受験対策を誘発し、大学が期待する柔軟で多様な思考力に基づく解答を期待できなくなる」(佐賀大)など、7校が受験生に与える影響への懸念を示した。

京都大学でも2月1日に行われた記者会見で「入試は知識だけではなく、解答に至った経緯を含む思考力を重視している」としているが、正解・解答例を公表していないことで、外部の検証が困難になっていると指摘する意見も多い。ミスがあったのは、大阪大、京都大ともに理科・物理の音波に関する問題だった。何れも条件設定が不十分だったため、解答が一つに絞り込むことができないというミスだった。

文部科学省では以前より各大学に解答例の開示に努めるよう求めているが、努力目標で法的な規制はない。

今回の相次いだ「1年前の入試ミスの発覚」を受けて、文科省は「入試ミスの防止や解答例の開示などのルール作りを進める」との林文科相のコメントを発表した。選択式問題の正解は積極的な公表を求めたり、公表を促す表現を強めたりするなど、「大学入学者選抜実施要項」の見直しを含めて検討に入る。入試情報の公表を進めることで、ミスがあった場合でも早期に対応し、受験生への影響を最小限に食い止めた考えを示した。

高度な記述式問題増加 採点・公平性 懸念する声も

大学入試は2021年度入試以降、大きく変わる。新テスト「大学入学共通テスト」では、思考力や表現力が重視され、記述式問題も出題される。新テスト元年は、現中3生が大学受験を迎える年だが、5年生、4年生が無関心でいてはいけなことは、前号でも指摘した通り。新テストを意識した出題が目立つようになってきたか

公 表	
(一部公表を含む)	
45校	
北海道大、筑波大、名古屋大、大阪大、九州大など	

非公表	
36校	
東北大、東京大、東京工業大、一橋大、京都大など	

北海道大	○	岐阜大	○
北海道教育大	■	静岡大	○
室蘭工業大	■	浜松医科大学	■
小樽商科大	■	名古屋大	○
帯広畜産大	○	愛知教育大	■
旭川医科大学	○	名古屋工業大	○
北見工業大	○	豊橋技術科学大	○
弘前大	■	三重大	■
岩手大	○	滋賀大	○
東北大	■	滋賀医科大学	■
宮城教育大	○	京都大	■
秋田大	○	京都教育大	■
山形大	○	京都工芸繊維大	■
福島大	○	大阪大	○
茨城大	■	大阪教育大	■
筑波大	○	兵庫教育大	■
筑波技術大	○	神戸大	■
宇都宮大	○	奈良教育大	■
群馬大	○	奈良女子大	■
埼玉大	○	和歌山大	○
千葉大	○	鳥取大	■
東京大	■	島根大	■
東京医科歯科大	■	岡山大	○
東京外国語大	○	広島大	■
東京学芸大	○	山口大	■
東京農工大	○	徳島大	○
東京藝術大	○	鳴門教育大	○
東京工業大	■	香川大	○
東京海洋大	○	愛媛大	○
お茶の水女子大	■	高知大	○
電気通信大	■	福岡教育大	■
一橋大	■	九州大	○
横浜国立大	○	九州工業大	○
新潟大	○	佐賀大	■
長岡技術科学大	○	長崎大	○
上越教育大	■	熊本大	○
山梨大	○	大分大	■
信州大	■	宮崎大	■
富山大	○	鹿児島大	○
金沢大	○	鹿屋体育大	※
福井大	■	琉球大	○

表中、○＝公表・一部公表、■＝非公表、※＝鹿屋体育大学は個別試験で学力検査を課さないのて該当せず
(読売新聞社調査)

らだ。また、国立大学協会では大学入試改革に向けて、国立大の個別試験で国語を中心に全ての受験生に長文の記述式問題を課す方針を表明している。大学関係者は「各大学は入試改革を意識しており、思考力を問う出題は今後増えるだろう」と話している。

高度で複雑な記述式問題では、正解が1つとは限らないケースも増えてくる。「解答の自由度が高い問題の場合、現在でも、大学に問題や解答について疑問を投げかけても『見解の相違』などといわれてしまうことがある」と話す予備校関係者もいる。

各大学のホームページを開くと、入学者選抜の冒頭に各大学のアドミッションポリシーが示されている。これは、各大学に求める学生像を明確にすることが義務付けられるようになったからなのだが、入試問題や解答例などの入試情報も可能な限り明らかにすることも今後は求められるだろう。現在でも、神戸大や鳥取大、上越教育大などは「図形と方程式に関する理解と計算力を問う」といった出題の狙いを公表している。正解が一つではない問題では、少なくとも設問の狙いや考え方のプロセスなどを明らかにするべきなのだろう。

大学入試ガイド(7)

Road to University

東大をはじめ、各大学でセンター試験を課す推薦入試の合格発表が行われた。東大、京大は3年目、お茶の水女子大・新フンボルト入試、大阪大・世界適塾入試も2年目の選抜を終えた。今年は新たに一橋大全部で推薦入試が開始されたのが大きな話題だった。志願要件は厳しいが、力のある生徒には果敢に挑戦してもらいたい。

国立大学推薦入試・AO入試実施結果

東京大学、京都大学をはじめとして、センター試験を課す推薦入試、AO入試の合格発表が行われた。本校からも、千葉大-薬、東京外国語大-言語文化、東京農工大-農に各1名の合格者を出すことができた。

3年目を迎えた東京大学推薦入試は「100人程度」の募集人員に対して、合格者は69人で、初回からの定員割れが続いている。出願条件として科学オリンピックや論文コンテストの入賞などが例示され、志願者自体が少ないためだ。それでも、合格発表の記者会見で推薦入試委員長の佐藤健二教授は「今年の総出願校155校中、新規は65校。3年間で321校から出願があり、今回で全都道府県からの出願を達成した」と話し、出願校の裾野が広がっていることを歓迎している。男女比も前年の一般入試で女性の合格者は19%だったが、今回の推薦入試では女性の合格者が42%と高くなっている。地方出身の女性合格者に対する家賃補助制度も導入されているように、東大は女性入学者を歓迎している。

平成30年度東京大学推薦入試

学部・学科名	募集人員	志願者数	合格者数
法	10人程度	26	11
経済	10人程度	10	4
文	10人程度	18	5
教育	5人程度	11	6
教養	5人程度	24	5
工	30人程度	43	16
理	10人程度	24	10
農	10人程度	11	7
薬	5人程度	6	3
医・医	3人程度	5	2
医・健康総合科学	2人程度	1	0
合計	100人程度	179	69

平成30年度京都大学特色入試

学部・学科・コース名	募集人員	志願者数	合格者数
総合人間	5	43	5
文	10	74	10
教育	6	23	5
法	20	372	—
経済	25	129	19
理	5	57	5
医-医	5	16	3
医-先端看護	20	59	20
医-人間健康-理学療法	5	8	4
医-人間健康-作業療法	5	7	3
薬-薬科	3	4	4
薬-薬	3	12	2
工-地球工	3	10	3
工-建築	2	4	1
工-物理工	5	13	5
工-電気電子工	5	9	4
工-情報	3	8	0
工-工業化学	7	9	3
農-資源生物科	3	17	0
農-応用生命科	3	8	1
農-地球環境工	3	1	0
農-食料・環境経済	3	13	2
農-森林科	3	9	4
農-食品生物科	3	14	3
合計	135	547	106

法学部は後期日程での募集のため、空欄である

平成30年度東京工業大学推薦入試・AO入試

区分	類名	募集人員	志願者数	合格者数
推薦入試	第1類	10	28	11
	第2類	10	53	10
AO入試	第3類	10	91	10
	第4類	20	193	20
	第5類	20	156	20
	第6類A	17	78	17
	第6類B		36	
	第6類C		52	
	第7類	20	44	20
合計		107	731	108